

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 ふるさと	代表者	北島 淳朗	法人・事業所 の特徴	佐世保港を一望する丘に立つ「小規模多機能ホームふるさと」は、併設施設にグループホームやサービス付き高齢者向け住宅があり、これまで自宅での不安や困っていたことを解消できる事業所です。ゆとりある空間では、レクリエーションや季節ごとの様々な行事はもちろん、思い思いにゆったりと自分の時間をお過ごしいただけます。
事業所名	小規模多機能ホームふるさと	管理者	辻純子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	2 人	人	1 人	人	人	5 人	人	10 人

項 目	前回の改善計画（目標）	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画（目標）
A. 事業所自己評価の確認	事業所内で自己評価内容を見直し西海市へ変更内容を確認し、新たな評価基準で業務に携わっていく。	この意見が出たのも、ずっとコロナ禍の状況で、自己評価の項目の中に、「地域の子供たちが自由に出入りできていますか？」という項目があり、そこは今の実態にそぐわないのではないか、という意見だったので、西海市に確認し、その一箇所を削除している。	・職員自己評価については、各職員が手書きやパソコン打ちしたものを全部読みこんだうえで、総合的な意見として、また、事業所としての外部に対してのきちんとした表明として、管理者を中心としてまとめあげたものです。私も、職員皆さんの意見も全部読ませていただいております。（理事長） ・身体拘束や虐待、プライバシーのところは一番大事な部分で、ここで職員皆さんがはっきりと「できている」と自己評価されているのが、本当に自分達で徹底的にされているのだと感じました。ちょっとした事でも人によって評価が違う、個人差があっても当然ですが、そのような中でこうして一生懸命に取り組んでいるんだと言う事がデータでわかるので、本当に安心だなという風を感じました。（利用者家族）	自己評価の内容を職員一人一人が意識して業務に携わっていく
B. 事業所のしつらえ・環境	ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業所内で過ごされる事も多くなり、利用者懇談会やアンケートからご利用者の意見を反映し、より居心地の良い空間づくりに努めていきたい。	2 ヶ月に 1 回の個別面談や利用者懇談会・アンケート結果を周知し、職員会議の議題に上げ、ご利用者の意向を反映した空間づくりや、生き甲斐・やりがい作りに努めた。	・新型コロナウイルス対策もあり事業所内の清掃・消毒はしっかりと実施している。（事業所） ・面会は感染の状況に応じて、直接の面会や非接触面会を実施している。現在どのような面会方法を実施しているかはホームページでも情報発信している（事業所）	引き続き、利用者懇談会やアンケートからご利用者の意見を反映し、より居心地の良い空間づくりに努めていきたい。
C. 事業所と地域のかかわり	SNS の活用やリモートでの交流会を積極的に実施していきたい。	小学生とのリモート交流会やコンサートを実施することができた。また、新型コロナウイルス感染症 5 類に引き下げ以降はリモートではなく、保育園のお遊戯発表やコンサートの開催する事ができた。	・地域の方からの相談件数や内容は、運営推進会議の中の事業運営報告の中で報告させて頂いております。（事業所） ・新型コロナウイルス感染症 5 類に引き下げ以降は、徐々に地域との交流や訪問を再開しています。（事業所）	ここ数年自粛されていた地域でのイベントや交流を企画し積極的に開催していきたい。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	SNS での情報発信や地域のみなさんとのリモート交流会や訪問を企画していきたい。	SNS での情報発信やリモート交流会に加え、新型コロナウイルス感染症 5 類に引き下げ以降は地域を訪れたり交流を再開した。	・事業所以外の活動やイベントへの参加状況については、運営推進会議の中の活動状況報告の中で毎回お伝えしております。（事業所） ・今年の 5 月以降は特養で開催されている法話への参加やコスモス見学等地域へ出向いての活動も増えています。（事業所）	状況に応じてリモート会議を活用しながら、積極的に地域や行政主催の会議に参加していきたい。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	新型コロナ感染症の状況をみながら、運営推進会議の場を活用していただけるような会議運営・進捗に努めていく。	西海市長寿介護課と社会福祉協議会の方々は毎回ご参加いただき、会議を介して行政や事業所・地域とつながり「相談し合う関係」を構築することができた	・委員の皆さんが積極的な方が多く、独居高齢者の支援やここに相談したらいいのか分からないといった地域実情や情報交換を運営推進会議を通してすることができた。	運営推進会議の場を活用した地域の情報共有や活発な意見交換ができるような会議運営・進捗に努めていく。
F. 事業所の防災・災害対策	災害や感染症対策については、社会情勢や介護保険制度の動向と合わせて、法人独自の基準に基づきしっかりと対応していく。	感染症対策や防災対策については、毎月訓練を実施し、訓練実施後は振り返りや見直しを行い精度を高めたいけるように努めた。	・防災や災害の事は樹立されているようですが、書式の中に防犯がないので、この中に防犯も入れてもらって「うちもこういう訓練をやっています」という事でご説明があればと思います。（委員） ⇒こちら（地域かかわりシート）が、決められた所定の書式になっておりまして、それを加える事は大丈夫なのかなと思いますので検討させて頂きたいと思います。 - 防犯訓練に関しては、利用者様向けに防犯講習会をして、考えられる危険に対しての対応法や指導を、脳トレの後に年に 1 回はするようにしております。また、防災の事に関しても同様に行っており、ご利用者様がしっかりとされている分、ご自分で解決しようとしてしまわれる事に関しては講習会の中でしっかりと説明しております。（事業所）	防災・災害と感染症対策に防犯対策を加え、社会情勢や介護保険制度の動向と合わせて、法人独自の基準に基づきしっかりと対応していく。